

B型、C型肝炎対策

【質問】 私は肝炎ウイルスの検査を受けたことがあります。来年から検診が無料になったり、治療費が安くなったりするとの記事を目にしました。詳しく教えてください。
(55歳・主婦)



治療費負担 引き下げへ

るのに月八万九千円(一般所得者の場合)に上っていた自己負担額が、所得に応じて三段階に分けられ一万五千元に引き下げられます。

【回答】 最近、新聞で血液製剤によって起こったC型肝炎の記事が頻りに報道されているので、C型肝炎の文字を目にされた方が多いと思います。

B型肝炎とC型肝炎は、B型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスが感染して引き起こされる肝炎です。長期にわたると肝硬変や肝がんになりやすく、C型の場合は十一・三十年で三、四割

が肝硬変や肝がんに行進します。B型・C型ウイルス感染者は三百二十万―三百九十万人と推定され、「二十一世紀の国民病」といわれています。

B型・C型肝炎の治療の主役はインターフェロンです。インターフェロンはウイルスが体内に侵入した際に作られる特殊なタンパク質で、ウイルスの増殖を抑えます。特にC型肝炎に

効果的で、六一・九割の患者さんが完治するとされています。最近、ペグインターフェロンという週一回の注射薬と、リビリンという経口剤との併用治療で、難治性の肝炎も高い比率で治癒するようになりました。

与党は近く、B型・C型肝炎患者の総合救済策として「肝炎治療七カ年計画」を発表する予定です。インターフェロンの治療を受け

無料検診で受診促進

増やすため、来年一年間、無料の肝炎ウイルス検診を医療機関で行うとしています。

本県はB型・C型肝炎の根絶を目指して肝炎診療体制の整備を検討しています。県内に拠点病院(一カ所)と肝臓専門医のいる専門病院や診療所と緊密に連携しながら、質の高い治療体制を築く考えです。拠点病院は検診の受診率を高めるために住民への啓発活動や医療機関の研修を担当します。検診でのウイルス陽性者の医療機関受診率や肝炎治療率などのデータ収集も進めます。

本県は全国有数の肝がん多発県ですから、肝炎診療体制の充実が望まれます。

(県医師会)